

INGING MOTORSPORT

INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

(No.5) 2007.7.7-8
SUZUKA CIRCUIT

INGING NEWS PAPER VOL.04

初優勝

ロニー・クインタレッリ優勝記念特集

RACE REPORT 第4戦 岡山国際サーキット
ROUND4 OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT

FREE
無料

<http://www.inging.co.jp>

Support by P-ENTER

INGING NEWS PAPER VOL.4 [インギング ニュースペーパー]

2007年7月発行 1冊44頁

発行：株式会社P-ENTER アミューズメント事業部
〒117-0013 東京都豊島区東池袋3-20-5 P-ENTER 東京ビル

第4戦・フォーミュラ・ニッポン岡山国際サーキット。
ロニー・クインタレリが過酷なレースを制する覇者となった。

RACE REPORT 第4戦 2007年6月9日-10日 **Formula Nippon Round4 OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT**
岡山国際サーキット



フォーミュラ・ニッポン第4戦決勝のフォーメーションスタート。クインタレリは最速グリッド、横濱は白旗グリッドとともにインからスタートとなった。クインタレリは最初のスタートで、出陣したポール・ディ・オスタロをかわして1コーナーでトップに立ち、いきなり1周目のヘアピンで多量クラッシュが発生したため、セーフティカーが導入されることとなり、甘くかいたマージンを失ってしまふ不運に。しかし、このセーフティカーランの間に小暮

今週末は、全てが完璧だった。

Ronnie Quintarelli [33号車ドライバー/ロニー・クインタレリ]

Ronnie's Message 「自分にとって、そしてINGINGというチームにとってのフォーミュラ・ニッポンでの初優勝は最高に素晴らしい気分だね。スタートしてトップに立ち、1周でリードをとれたのに、すぐにセーフティカーが出てしまったが、リス

スタートも完璧に決まり、再びリードすることができた。序盤の20周くらいは、やや燃料も減って重かったが、軽くなるにつれてバランスは向上し、序盤のトレイルエ選手からのプレッシャーにも楽に耐えることができた。自分が日本に来て、F3時からお世話になったINGINGというチームで、ともにフォーミュラ・ニッポンにチャレンジし勝つたことは大きな喜びだ。どこの作業も完璧だった。まだまだ予選でのミスなど、トップチームとの差はあるが、家族のような夜のチームスタッフたちとともに次戦以降も頑張りたい。

完璧な仕事をしてくれましたね。

【フォーミュラ・ニッポン監督/由良拓也】



Yura's Message

「高品質なフォーミュラ・ニッポンでは初めての優勝という点と、観客の熱意に心を打たれてくれた点の両方です。素晴らしい景色が美しいと大変良い経験をさせてもらいました。INGINGというチームについては、山口県に感謝と敬意とで情熱がなかなか入らないというハンデがあるのですが、そういう状況がある中で今年から色々な経験が得られ、その結果としてチームが成長しているという形で帰ってきて、トヨタオーナー以下、新しいレーシングチームの形勢がわかりやすくて良かったと思います。今日は本当にロニーが素晴らしい仕事をしてくれました。」



に、そして迎えた4周目のリスタートでもクインタレリは落ち着いて好ダッシュを決め、トップを守ること成功。一方の横濱はジョアオバオロ・デ・オリベiraに先行を許すも、5周目のまま周回を遅れていく。クインタレリは有数のプロトレイルエとの差を縮める姿勢を見せながらも、じわりとリードを広げて行く。しかし、レース半ばを過ぎると38周あたりから一部で雨が降り出したこともあり、タイヤの磨耗が激しかった横濱は一時4周目に浮上も苦戦を強いられ、42周目のヘアピンで片側道路のオーバーテイクを許し5周目にポジションを下げ



る。44周目に迎えたトレイルエがピットインした次の周、クインタレリがピットイン。チームスタッフの最早い作戦でコースに復帰したロニーは、見逃しレイルエの前に躍り出る。一方横濱は48周目にピットイン。しかしコースに戻ったときには17周遅れとなってしまい、49周目に上位陣のすべてがピット作業を終えたと、再びクインタレリはトップに躍り出る。そこからの20周間はチームにとって非常に長く感じられたが、最終に再び力点を注いだクインタレリはトレイルエを引き離してフィニッシュラインに突入。そして見事トップでチェッカーを受け、全戦の初優勝を飾る。横濱はピルビン・ビルハイムとの接触を演じたもののオーバーテイクはならず、12位でのフィニッシュとなった。マシンを降り、喜びを全身で表したクインタレリは、藤田エンジニアからスタップと抱きかかえ、横濱の祝賀を受けガッツポーズ。真実の頂点でイタリア国歌を聞いたのだった。



嬉しい反面、悔しい気持ちもあります。

[34号車ドライバー/横濱直輝]

Yokomizo's Message

「スタートが速く、1コーナーでトップを奪ったのですが、2コーナーでアンダーを犯してしまいました。そこで先行を失ったことで最終的に7周遅れに下がりました。それでも序盤の勢いを活かし、一時は4位にも上がったのですが、中盤タイヤが磨くにつれ、雨が降ってきたことでコース上との差がもたらした状況に次第で順位を落とされてしまいました。ロニーの素晴らしい走りもありました。次戦の決勝では、ぜひ好成績で、上位に食い込めるようなレースをしたいと思います。」



[33号車]ロニー・クインタレリ 優勝 [34号車]横濱直輝 12位

今までに無い喜びを感じました。

[33号車チーフメカニック/小森達也]

Komori's Message

「正解を導き出したとは思っていませんが、まさか勝てるとは思っていませんでした。2002年にOG21(日本でのデビューレースで優勝)して以来出陣してから9年が経過したのですが、RNDドライバーになって3年目(優勝経験したのは今年からです)。結果が出さずにはないレースが続いていて、何とか勝たせてやりたいと思っていました。ロニーが横濱と争う岡山でのレースでこのような結果が残ったことは、今までに無い喜びを感じました。何せロニーと対戦しなきゃならぬ勝ち負けで喜んでいいくらいです。この結果がブロックと変わらないように、観客のレースも最高の車を駆使してロニーと一緒に観戦の一番楽しい時を過ごします!!」



Copyright ©2007 INGING MOTORSPORT ALL RIGHTS RESERVED